

復興橋梁

震災前、東京市の橋梁は675橋で、その大部分は木橋でした。当時は、耐震耐火構造は考慮されておらず、鉄筋コンクリート橋のような構造の橋は僅少でした。隅田川に架設されていた吾妻橋、厩橋、永代橋も構造は鉄橋でしたが、橋面が木造と耐火構造になっていません。

震災による橋梁の被害は、震源地に近く揺れによる被害が多かった横浜市とは異なり、東京では揺れによる被害は少なく、被害の大部分は火災によるものだったのです。東京市域において、市が管理していた全橋梁数の過半数が焼失したため、市民たちは逃げ場を失い、甚大な被害をもたらすことになりました。

この惨事を教訓とし、復興橋梁は総じて耐震耐火構造にすることとしました。それだけでなく、交通の便等を考慮し街路の幅員と同一を原則、通船を踏まえた下部構造、意匠は堅実かつ外観も美術的になるよう審査会を設け工学的技術と審美との調和に努めるなど、東京にふさわしいすがたを目指しました。

復興橋梁は、被害状況を分析し、対策を講じ、将来を見据えて構築したことにより、現在もその美しいすがたを見ることができるとのことです。